

# 水球競技のルール変更に伴う指導者の意識調査とゲーム変容に関する研究 —小学生の特別ルールについて—

今田 千紗都 (競技スポーツ学科 情報戦略コース)  
指導教員 望月 聡

キーワード：水球競技 ルール変更 ゴールサイズ 意識調査 ゲーム変容

## 1. 緒言

水球競技において、FINAのルールで規定されているゴールの大きさ(縦0.9m×横3m)は、ジュニア期の選手では、体格に対してゴールが大きすぎることで指摘されていたことから、国内でも2010年度から小学生区分のゴールが小さなゴールに変更されることとなった(縦0.7m×横2m, 以下、小ゴール)。そこで、本研究は、指導者が小ゴールに対してどのように考えているのかを調査すると共に、今後のジュニア期の競技力向上の方策を検討し、また、ゲーム変容を調査・研究することを目的とした。

## 2. 研究方法

意識調査は、小学生、中学生男女のいずれかを指導している指導者46名を対象とし、2010年度関西ジュニア選手権、2010年度夏季JOにおいて、質問紙法によるアンケートを実施した。ゲーム変容の研究対象は、2009年度春季、2010年度夏季の全国大会の準々決勝以上の8試合ずつを対象とし、項目ごとに分析を行った。

## 3. 結果と考察

小ゴールの導入によってゴールキーパーやシューターの技術向上の展望がみられるため、小ゴールの導入を良く思っている指

導者が約7割とかなり高い値を示した。しかし、小ゴールを良く思う一方で、小ゴールを「使用したことが無い」と回答する指導者が約半数を占めた。また、実際の試合では、得点は、変更前の7.1点から変更後の4.2点に減少し、シュート成功率も変更前の44.4%から31.3%と大幅に減少した。これらのことから、指導者が良い影響を与えると考えていた以上に、シュートが困難になったことが予想される。

## 4. まとめ

現状として、小ゴールの使用割合が低いことが問題である。小ゴールになったことでシュート技術の向上を図るには、小ゴールに慣れることが必要である。多くのチームが小ゴールに慣れ、さらにレベルアップを図るためには、小ゴールを使用できる環境や購入費用などを今後考えていく必要がある。

また、今回の調査はルール変更後、多くのチームにとって本番大会前に行われ、小ゴールに対して準備段階での調査となった。今後も将来を見据えたジュニア期の競技力向上を考えると、ゲーム内容、指導方法、指導者の意見などを継続して観察・研究する必要があると考えられた。